

令和5年度 市長とちよこっトーク（栗山地域） 会議結果（要旨）

日時	令和5年10月4日(水) 14時 ~ 15時30分
参加者	日光市長 栗山地域まちづくり協議会 7名
テーマ	地域みんなが生きがいを持って暮らすには
意見交換	<p>【課題1】 地域みんなが集まり、ふれあい、交流できる場の創出</p> <p>【参加者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人暮らしの高齢者が多いため、家の周りの草刈りや除雪を行ってくれるような、比較的若い人でボランティア組織をつくり行ってもらう。また、その取り組みで人と接する機会も多くなり、人とのふれあいや情報交換が生まれる。 ・元気な人と高齢者とで荒地になった畑を耕し、何かを作ってもらい収穫時に喜びを分かち合えるような取り組みをすれば生きがいになる。 ・独居老人が多く、一人でいることが多いため、月に一度程度集会所や上人一休の湯などに集まり、お茶のみをしてはどうか。 ・「働く場所がない」、「生活するには不便」という地域の現状の中、ここ数年はコロナの影響で地域間の交流やイベントが中止になり、更に若者が地元に戻って来る機会ないため、地元に戻ってきて楽しめるイベントができないか。 ・学校がいずれ無くなり就職先も無いとなると、地元に戻ってくることをためらっている方もいると聞く。地元出身者が戻らず後継者が居ないため、観光業の壊滅状態が危惧される。 ・地元出身者の雇用の観点からも旅館業を活性化させたいが、今は人材が少なく市外からの雇用が多くなってきており、旅館等の寮も埋まり居住地がない。 ・事情により住所を移転できない雇用者もあり、市営住宅や教職員住宅を旅館、ホテルの代表者名義で借りることが出来ないか。 ・地区をまたいだ参加しやすいイベントを開催し交流できる場が欲しい。 <p>【市長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上栗山地区で雪かき等のボランティア活動の事例があるとのこと。また、足尾地域では、ボランティア活動するにも無償だと負担になり難しい面もあるため、ポイント制にしそれを地域通貨として使い、地元協力店で買い物ができるような取り組みを考えている。 ・移動手段がどの地域でも課題になる。先進地の取り組みを参考に地域に合ったやり方を見出していきたい。 ・上人一休の湯を使用する場合は市の主催、共催とすると使用料減免になる。運用方法を検討しながらお茶飲み会等に是非活用してもらいたい。 ・若者が地元に戻って来ないのは市全体的にどこも同じ状況である。移住、定住の取り組みをしているが、他自治体との競争が激しく効果がなかなか出てこない。地域外から地域に協力してくれる方や興味がある方を増やし、まちづくり人口を増やす取り組みが主流になってきているため、市でも取り組みを進めているところである。 ・市営住宅や教職員住宅は、補助事業等の絡みもあり目的外利用に該当してしまい利用が難しい状況である。 ・まちづくり協議会の中で、全地域で連携したイベントの開催を検討していただきたい。

意見交換	<p>【課題2】 栗山地域特有の課題</p> <p>【参加者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の方は電気柵を設置してまで作物を作れないため耕作放棄地が増えている。旅館、ホテルでは可能な限り地産地消を取り入れたい。耕作して収入を得られるような状況に出来たらよい。 ・栗山地域は積雪が1m以上積もる地区も珍しくない。除雪体制は整っているが、車が通れるまでに時間がかかる地域もある。水道料金は、冬季減免で安くなって助かっているが、灯油代、電気代が日に日に高くなり、年金生活者には厳しい状況である。補助制度や支援について市として検討をお願いしたい。 ・小学校、中学校が無くなることは地域への愛着が無くなり人口減に繋がると思う。児童、生徒が不在の場合には休校とし、少人数でもいれば開校するなど、学校は残してほしい。学校が無くなることで、地元に戻ることを躊躇してしまっている状況。 ・川俣地区は、奥鬼怒も含め救急車を呼んだ際に川治分署から約1時間半かかり、道路も狭いため冬場は更に時間がかかる。そのため、若間のトンネルの早期開通をして欲しく、地元自治会等関係機関と合同で県に要望に行ったが、市からも要望等を行って欲しい。 <p>【市長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栗山地域まちづくり協議会事業で農園の活動を進めていくとのこと。獣害対策の既存制度を活用し、課題が出た際は制度設定も検討していく。 ・新潟県の長岡の出身で、冬季間は湯西川に仕事で行っていたこともあり、地域性や除雪が大変なことは理解している。 ・低所得者には物価高騰対策の支援を行っており、その他、とくとく商品券がある。2割安く買えるようになっておりガソリンスタンドでも使用できるため是非活用してもらいたい。現金での支援は難しい。販売店の加盟促進について取り組んでいく。 ・どの学校も歴史があり閉校するのは辛い、教育的検知から集団生活を学ぶため進めているところでもある。 ・個人的所見ではあるが、一度閉校すると次開校することは難しいため、分校的なもの創設することも必要なのかなと思っているため、今後検討していきたい。 ・若間トンネルについては、県への要望を知事に直接渡し、日光土木事務所長とも話しており、県議会議長にも要望活動をしているところである。土地の相続関係が支障になり時間を要しているようであるが、引き続き早期開通に向け要望活動を行っていく。
意見交換	<p>【課題3】 その他の課題</p> <p>【参加者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市町村合併について、日光市は5市町村の合併に伴い、栗山地域は人口が急激に減り、学校や保育園が無くなる等のデメリットが目立ち、良かったことはなかなか思い浮かばない。足尾や三依も人口の流出が進んでいると聞く。地域に人が住んでいることにより自然が守られてきたが、現在は地域の人口が減り、動植物の生態系までも変わってきているように感じる。今後、地域の人が減り続けることを危惧している。このような状況に対し市長の考えを聞きたい。 <p>【市長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口減少、少子高齢化は日本全体の大きい課題であり、全国的に急速に進んでいる。今市地域においてもこれから学校、保育園の統廃合は続き、人口減少、少子高齢化は地域の問題ではなく、日光市全体的な大きな課題である。 ・合併したから急に人が減ったわけではなく、価値観や生活スタイルの変化、働き方の多様化等要因は様々だと思う。合併のメリットとしては、合併後の旧市町村間での助け合い等があげられる。 ・生活をしていくには働く場所が必要なため、産業の振興が重要である。 ・地元ならではの「食」を活かした取り組みを考え、それを旅館業に反映させるなど産業振興に繋げることが大切と考える。 ・栗山地域に限らず、日光市内全体の産業振興に努める。